

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

第3回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認
- 基礎研修のねらいの確認
- 基礎研修の全体カリキュラムの確認
- 受講者向けグループワークでのルール検討
- ファシリテーター向けグループワークでの留意点検討
- 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

第3回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認
- 基礎研修のねらいの確認
- 基礎研修の全体カリキュラムの確認
- 受講者向けグループワークでのルール検討
- ファシリテーター向けグループワークでの留意点検討
- 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

スケジュール

※あくまでも現時点での予定となります。

青字: 前回資料からの修正点

R 3年度	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	第1回		第2回	第3回	第4回	第5回		第6回
主な検討項目	・養成するピアサポーター像 ・検討課題整理		・基礎研修講義内容検討 ・基礎研修演習の検討課題整理	・基礎研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討	・専門研修講義内容検討 ・専門研修演習の検討課題整理	・専門研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討		・専門研修演習ワークショップ用資料検討 ・次年度引継事項整理

第2回・第3回は、当初の予定より1か月後ろ倒し

専門研修は、当初の予定より2か月後ろ倒し

R 4年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月
研修実施		基礎研修 2回 計4日間			専門研修 2回 計4日間			フォローアップ研修 2回 計4日間	
カリキュラム検討	第1回					第2回	第3回		第4回
主な検討項目	・前年度の振り返り ・講師の決定 ・フォローアップ研修演習の検討課題整理					・基礎研修、専門研修の反省を踏まえた検討課題再整理 ・フォローアップ研修教材検討、ワークショップ用資料作成	・フォローアップ研修ワークショップ用資料作成 ・講師の決定		・フォローアップの反省点の振り返りと年間まとめの回

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

第3回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認
- **基礎研修のねらいの確認**
- 基礎研修の全体カリキュラムの確認
- 受講者向けグループワークでのルール検討
- ファシリテーター向けグループワークでの留意点検討
- 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

(本スライドは、研修当日のオリエンテーションで事務局より説明することを想定しています)

青字：前回資料からの修正点

基礎研修 ねらい

ピアサポーターが目指すもの

- ・基礎知識を習得し、ピアサポートの役割や価値を理解し、自分の強みを活かすことができる。

専門職が目指すもの

- ・基礎知識を習得し、ピアサポートの役割や価値を理解し、ピアサポーターと協働することができる。

協働の意義…

専門職とピアサポーターが、互いの専門性や強みを活かして、適切な支援が実現できる

- ・専門職：
支援者としての経験や専門性を活かして、当事者に寄り添い、適切なサポートの方向性を提案できる。
- ・ピアサポーター：
障害とともに生きてきた自身の経験を活かして、良き理解者・良きロールモデルとして当事者に寄り添い、専門職に適切なサポートの方向性を提案できる。

⇒協働の意義を加筆しましたが、適切な説明となっていますか。

協働するために必要なこと

ピアサポーターと専門職が互いを知ること

受講者が目指すもの

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

第3回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認
- 基礎研修のねらいの確認
- 基礎研修の全体カリキュラムの確認**
- 受講者向けグループワークでのルール検討
- ファシリテーター向けグループワークでの留意点検討
- 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

前回資料再掲

基礎研修カリキュラム 1日目

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●研修の全体像・基礎研修のねらい ●グループワークのグラドルール 	研修事務局	10時20分～10時30分 (10分)	
1 ピアサポートの理解	<ul style="list-style-type: none"> ●障害領域ごとの歴史や背景 ●障害領域ごとの視点 ・(例)難病の場合、ピアサポーターから話を聞くことで、病気への理解を深める。 	・当事者1人(秋山委員)	10時30分～11時00分 (30分)	p.3～p.6
2 演習①	<ul style="list-style-type: none"> ●講義1の振り返り、気付きの共有 ・(例)「あなたの考えるピアサポートやあなたのストレンクス(強み)について、自己紹介を交えながら話し合ってみましょう。」 →所属事業所(サービス種別、障害種別)、ピアサポートとは、ピアサポートの強み等の意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、<u>精神、身体、知的、難病、高次脳</u>の各障害領域から選任 ・演習統括は、秋山委員 	11時00分～12時00分 (60分)	p.6
(60分昼休憩)				
3 ピアサポートの実際・実例	<ul style="list-style-type: none"> ●障害領域ごとのピアサポートの実践 ・雇用している立場からの実践報告(ピアサポーターの活躍の場の例、雇用者が感じる利点と工夫している所) ・ピアサポーターの立場からの実践報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者、専門職(検討委員会委員等) 計5人 ・<u>精神、身体、知的、難病、高次脳</u>の各障害領域から選任 ・講義統括は、岩崎委員長 	13時00分～14時10分 (70分)	p.7～p.22
(15分休憩)				
4. 演習②	<ul style="list-style-type: none"> ●当事者:自分の経験を振り返り、体験の活かし方を話し合う ●当事者以外:ピアサポーターの活かし方を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、<u>精神、身体、知的、難病、高次脳</u>の各障害領域から選任 ・演習統括は、岩崎委員長 	14時25分～15時05分 (40分)	p.21

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

前回資料再掲

基礎研修カリキュラム 2日目

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
5 コミュニケーションの基本	●ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有	・当事者1人(宮本委員紹介) ・国検討チーム作成の講義ビデオ教材の活用 ・必要に応じて、講義サポート(ワークの見本等)は、宮本委員	10時30分～11時10分 (40分)	p.23～p.26
6 演習③	●講義5の振り返り、気付きの共有 ・(例)「『私』を主語にする伝え方で伝えてみましょう」	・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、講義講師	11時10分～12時10分 (60分)	p.26
(60分昼休憩)				
7 障害福祉サービスの基礎と実際	●障害福祉施策の歴史 ●障害福祉施策の仕組み	・専門職1人(吉野委員)	13時10分～13時50分 (40分)	p.27～p.30
8 演習④	●講義7の振り返り、気付きの共有 ・(例)「福祉サービスにおいて、ピアサポートがどのように活用されるのか、話し合ってみましょう」	・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、吉野委員	13時50分～14時10分 (20分)	p.30

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

前回資料再掲

基礎研修カリキュラム 2日目

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
(15分休憩)				
9 ピアサポートの専門性	<ul style="list-style-type: none"> ●ピアサポートの具体的な専門性 ●倫理と守秘義務 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者1人(小阪委員) 	14時25分～15時55分 (30分)	p.31～p.36
10 演習⑤	<ul style="list-style-type: none"> ●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターの大切な強みについてどう思いますか」、「ピアサポーターと専門職と一緒にサポートすることについてどう思いますか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) <p>計10人(5グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任</u> ・演習統括は、小阪委員 	15時55分～16時45分 (50分)	p.35

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

第3回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認
- 基礎研修のねらいの確認
- 基礎研修の全体カリキュラムの確認
- **受講者向けグループワークでのルール検討**
- ファシリテーター向けグループワークでの留意点検討
- 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

(本スライドの内容は、研修当日のオリエンテーションで事務局より説明することを想定しています)

【研修受講者の方へ】グループワークでのルール

- グループに積極的に参加しましょう。
- しっかり聴く姿勢を心がけましょう。
- もちろん、内容によっては「パス」という選択もあります。
- 一人ひとりの考えを尊重しましょう。
- どのような意見や発言も批判や否定をしないで傾聴しましょう。
- 時間をひとりじめするのではなく、わかちあいましょう。
- お互いの信頼がなければ話はできません。参加者個人の情報は、その場において帰り、他人に話したりしないようにしましょう。

⇒他に補足すべきことはありますか。修正すべきことはありますか。

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

第3回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認
- 基礎研修のねらいの確認
- 基礎研修の全体カリキュラムの確認
- 受講者向けグループワークでのルール検討
- **ファシリテーター向け留意点検討**
- 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、事前に事務局よりファシリテーターを担っていただく方に共有することを想定しています)

【ファシリテーターの方へ】 グループワークをファシリテートする上での留意事項

- 参加者の中には「グループワークがはじめて」という方もいます。アイスブレイクを行うなどして、場の雰囲気を温めましょう。
- 参加者から意見を引き出す立場であることを意識し、ファシリテーターが話しすぎないようにしましょう。
- 参加者同士の意見の対立があった際には、どちらも否定せず、柔軟に対応しましょう。
- ピアサポーターの経験値は、参加者にとって様々です。経験の浅い方が遠慮がちになっていたら、意識的に声掛けをし、参加者が均等に話ができるよう配慮しましょう。各演習で、最低1回ずつ、参加者の方が発言できることが理想です。
もし、1人の方が話し続けてしまう場合は、時間で区切って、次の方に話を譲っていただくなどの柔軟な対応も必要です。

⇒他に補足すべきことはありますか。修正すべきことはありますか。

⇒トラブルを未然に防ぐ視点と、トラブルが起きてしまった際にどう対応するかの見点の双方から、ご意見いただけますと幸いです。

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

研修実施に当たってのファシリテーターへの事前の配慮について

配慮が必要なこと

ファシリテーターも緊張する！
ファシリテーターの緊張感の緩和が必要



対応策

- ・ファシリテートする上での留意事項を事前に共有
- ・演習で想定される参加者からの疑問への対応案などをまとめ、**ファシリテーター用持ち資料**として提供

ファシリテーター用持ち資料案
を本委員会で検討

配慮が必要なこと

担当するグループの参加者について
どんな人が参加するかわからないと不安



対応策

- ・当日担当するグループの参加者の情報（障害領域、ピアサポーターとしての経験値、研修への付き添いの方の同行有無、受講目的等）を、事前にファシリテーターに共有

⇒他に補足すべきことはありますか。修正すべきことはありますか。

東京都障害者ピアサポート研修 基礎研修 演習概要

第3回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認
- 基礎研修のねらいの確認
- 基礎研修の全体カリキュラムの確認
- 受講者向けグループワークでのルール検討
- ファシリテーター向け留意点検討
- 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討

演習① ピアサポートの理解

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- 障害領域ごとの歴史や背景、障害領域ごとの大切な視点を学ぶことで、ピアサポートの基本的な意義や効果を理解する。

設問

1.あなたの考えるピアサポートやあなたのストレングス（強み）について、自己紹介を交えながら話し合ってみましょう。

回答例

「ピアサポーターとしてカウンセリング業務に従事しています。同じ経験をしてきたからこそ当事者に寄り添い、無理なく『本人のやりたいこと』を一緒に探すことができるのが、自分の強みだと考えています。」

想定される懸念



障害者

1-1.「ピアサポーターとしての経験が浅く、周囲にピアサポーターの先輩職員もいないので、自分に何ができるのかイメージが持ちづらいです」



専門職

1-2.「この研修を通じてピアサポートの意義を学んでから、ピアサポーターの雇用に向けて検討しようと思っているので、話すことがありません…」

ファシリテーターとしての対処法

1-1.「人によって活かせる経験、強みは様々です。他のピアサポーターの経験談を参考に、研修を通じて自分なりのピアサポーター像を一緒に考えましょう」

1-2.「専門職の方には、『支援者としての経験や専門性を活かして、適切なサポートの方向性を提案できる』という強みがあります。その強みは、ピアサポーターと協働して当事者へのサポートを行う上で不可欠なものです。」

ファシリテーターのポイント

最初なので、自己紹介を通じて、グループメンバーがお互いを知り合う場
障害者としての経験・支援者としての経験、様々な経験がピアサポーターに生きるということ
を説明し、ピアサポーターとして経験の浅い者にも自身の強みを考えてもらう・正解があるわけではないので、あらゆる意見を受け入れる

演習② ピアサポートの実際・実例

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- それぞれの障害領域におけるピアサポーターの歴史を踏まえつつ、多様な障害領域のピアサポート活動を理解する。

設問

さまざまな障害領域で、ピアサポートが実践されています。具体的にピアサポートが活用される場所や方法は異なりますが、共通しているのは、経験を活かして活動する点です。

- 1.ピアサポーターの方は、自分の経験を振り返り、自分の体験の活かし方についてグループで話し合ってみましょう。
- 2.専門職の方は、経験を活かして活動するピアサポーターとどのように効果的に協働できるか考えてみましょう。

回答例

「1.長期入院から地域生活に戻った自身の経験を活かして、悩みを聞いたり一緒に退院後のアパートを探したりと、地域移行支援に携わっている」(ピアサポーター)

「2.どんなサポートや声掛けをもらって良かったかなど、ピアサポーターの言葉は大変貴重な情報であって、会議の場でも対等の立場で意見交換している」(専門職)

想定される懸念



障害者

専門職

1.「ピアサポーターとしての経験がないので、話せることがありません…」

2.「周囲の専門職が、ピアサポーターとの接し方に悩んでしまい、両者の間に溝ができてしまいがちです」

ファシリテーターとしての対処法

1.「活かせるのは、ピアサポーターとしての経験だけに留まりません。障害とともにある生活やリカバリーに至った経験だって、当事者へのサポートに重要な要素です」

2.「当事者にしかわからない経験談を語るができるピアサポーターは、伴走型支援のスペシャリスト。適切なサポートの実現という目的は共通です。互いが遠慮しすぎず、意見を言い合える場づくりをしていきましょう」

ファシリテーターのポイント

ピアサポーターには、障害とともに生きてきた自身の経験の振り返りを促し、経験を語ってもらうことから始める。専門職には、ピアサポーターとの協働の意義を理解してもらう、

演習③ コミュニケーションの基本

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有により、ピアサポートでのコミュニケーションの基本や大切さを理解する。

設問

「あなた」を主語にする伝え方は、相手を決めつけて、ぎくしゃくしがちです。「私」を主語にすることで、「あなた」が取っている行動が「私」にどんな気持ちを引き起こすのか、相手に気付かせ気持ちを受け止めてもらいやすくなります。信頼関係を構築できる伝え方を意識しましょう。1.次の「あなた」を主語にする伝え方から「私」を主語にする伝え方に変えてみましょう

(例文) あなたは事前連絡なしに約束の時間に来ないなんて、非常識だ。

回答例

「あなた」が主語：
「あなたは事前連絡なしに約束の時間に来ないなんて、非常識だ」

↓ <CHANGE! >

「私」が主語
「私は約束の時間にあなたが来なくて、事故にでもあったのかととても心配になりました」

想定される懸念



1-1.「『私』を主語に変えるということは、当事者とのコミュニケーションに当たっては、自分の意見を押し通す姿勢が大事なのですか？」



1-2.「障害者の方が、なかなか心を開いて話をしてくれません…」

ファシリテーターとしての対処法

1.「そうではなく、『私』を主語にする伝え方は、言われる側が指摘や相手の気持ちを受け止めやすくなるための一つ的手段です。障害者の方が話をしている時は、あくまで傾聴の姿勢を心がけましょう」

1-2.「不安や緊張を抱えた経験のあるピアサポーターの協力を得て、焦らず信頼関係を築きましょう。講義で学ぶ傾聴の姿勢や環境づくりも大事です」

ファシリテーターのポイント

信頼関係を構築するためのコミュニケーション手法を、参加者に学んでもらう。ワークの趣旨を理解して、自分の気持ちに焦点が当てられるとベスト。

演習は「練習」であって上手い下手はない。やってみることが大事。出された意見に対して、ファシリテーターは肯定的にフィードバックする。

演習④ 障害福祉サービスの基礎と実際

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- 障害福祉施策の歴史や障害福祉施策の仕組みを学ぶことで、ピアサポーターが雇用される障害福祉サービスの歴史や現状、その仕組みなどを理解する。

設問

1.障害福祉サービスにおいて、ピアサポートがどのように活用されるのか、話し合ってみましょう。ピアサポーターの方は「どんな活躍の場があるか」、専門職の方は「どんな雇用のあり方があるか」という視点で考えてみましょう

回答例

- ・「精神科病院などに長期で入院してきた人たちの退院を支援するピアカウンセラー」（相談支援事業所）
- ・「自宅に訪問して家事援助や介護をするピアヘルパー」（居宅介護事業所）

想定される懸念



障害者

1-1.「演習②『ピアサポートの実際・実例』での話と同じになってしまいます…」



専門職

1-2.「ピアサポーターの活躍の場は、障害福祉サービス事業所・施設以外にもあるのでしょうか？」

ファシリテーターとしての対処法

1-1.「具体的な『障害福祉サービスの提供』の場면을想定して話してみましょう」

1-2.「障害福祉サービス事業所・施設以外にも、医療機関や行政などでピアスタッフと活躍される場合も想定されます。また、ピアサポーターの強みは、障害福祉制度の中だけで活かされるのではなく、インフォーマルな社会資源にも活かしてもらいたいと考えております」

ファシリテーターのポイント

障害福祉サービス事業所・施設の中で、ということ意識してもらう

演習時間が20分間と短いので、参加者にまんべんなく話を聞く時間配分が重要

演習⑤ ピアサポートの専門性

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポートの具体的な専門性や倫理と守秘義務を学ぶことで、ピアサポートの専門性を理解する。

設問

- 1.ピアサポーターの大切な強みについて、どう思いますか。講義で学んだことを踏まえて、あなた自身の考えをお話ください。
- 2.ピアサポーターと専門職と一緒にサポートすることについてどう思いますか講義で学んだことを踏まえて、あなた自身の考えをお話ください。

回答例

- 1.「経験を活かして当事者によって心強い味方であり、人生のロールモデルとなることができる」
- 2.「それぞれの強みを活かして、一緒により広いサポートができる」

想定される懸念



1.「ピアサポーターには障害者としての経験があるので、あえて専門職と協働する必要性は感じられません…」



2.「ピアサポーターが遠慮がちでなかなか歩み寄ってもらえません…」

ファシリテーターとしての対処法

1. (想いを受け止めた上で、)「ピアサポーターだけではサービスに限界があるので、よりよいサービス提供に向けて専門職と協働していきませんか」

2.「ピアサポーターと専門職は同じ目標に向かう対等な立場としての協力者なのだということを、ゆっくり理解してもらいましょう」

ファシリテーターのポイント

ピアサポーターの可能性を受講者自身に言語化してもらう

ピアサポーターと専門職の協働の重要性を再認識してもらう

基礎研修の最後の演習なので、講義で学んだことを各受講者が咀嚼できているか確認 20